

# 支部活動

45- 地域に根ざして活動する10支部  
知識・つながり・地域貢献活動

- 明石支部
- 淡路支部
- 加古川支部
- 神戸支部
- 三田支部
- 西はりま支部
- 但馬支部
- 阪神支部
- 姫路支部
- 北はりま支部

## 明石支部

支部長 後 祥和

### Knowledge

#### 市民の悩みに答える明石六士会の活動 “法の日”無料相談会

毎年10月1日の法の日に、明石市内の士業6団体行政書士会、社会保険労務士会、司法書士会、土地家屋調査士会、税理士会、我々建築士事務所協会の各明石支部が合同で無料相談会を開催しています。10月1日の「法の日」とは、昭和3年10月1日に陪審法が施行されたことにより翌年から10月1日を「司法記念日」と定められたことに由来し昭和35年6月の閣議了解において「法の日」を制定することとなり、この日を「法の日」としました。

法のもと活躍するそれぞれの会が相談者のために一斉に行う会を毎年開催し多くの方の役に立っております。一昨年より、明石市の後援も頂き現在は、パピオス明石2階のあかし市民広場で開催をしています。開催の周知については、市内の各自治会へ、チラシを配布し、各家庭への周知を図り、明石地域の情報紙(フリーペーパー)ミニコミ明石への掲載等、より多くの方々へ活動を知ってもらい又役立てるよう活動しています。2025年度は幹事6名と支部長合計7名で午前の部と午後の部に分かれ相談員を担当し、市民の相談に対応しました。これからも継続していく活動です。

### Local activities

#### 行政連携で広がる建築相談と 法改正対講習会

毎月第2火曜日の13時から15時30分まで、明石市役所市民相談室にて、住宅の新築・増改築・修繕工事などに関する建築相談を実施しています。市役所の予約制のもと幹事3名が輪番で対応し、内容は建築に限らず多岐にわたり、地域貢献活動として長年にわたり明石市と連携してきました。

また、大阪北部地震におけるブロック塀倒壊事故を契機に、明石市建築安全課と協議し、ブロック塀の安全性に関する相談窓口を開設。現在は工事全般の相談にも対応し、必要に応じて建設業協会明石支部とも連携しています。

さらに建築基準法改正への対応として、2020年より兵庫確認検査機構 稲川社長を講師に迎えたWEB講習会を継続開催。2025年は「建築基準法の動向と省エネ小規模モデル解説編」をテーマに実施し、他支部や協会外建築士の参加も広がっています。行政・関連団体との協働を通じ、実務に即した学びの場を今後も継続していきます。



## 淡路支部

支部長 長次 昌宏

### Knowledge

#### 時代の変化に応える 実務ナレッジ講習会

淡路支部では毎年賛助会の新しい知見・製品の説明会を開催し、時代の先端技術を担当している各メーカーの技術者や専門知識を持った担当部局の方を招いて40分~1時間程度の専門講座として講演していただいています。15分程度の新製品の紹介と説明をいただき、時代のニーズに対応していける人材育成を行っています。

法規講習会も、毎年1回開催。個別の講師を招いての講習もしておりますが、基本的に時代の流れにリアルタイムに適応していく考えて演題などの選定に努めています。近年建築基準法・盛土法・省エネ基準等の改正や淡路管区に於いて増えている、民泊・シェアハウス・旅館営業法の改訂と目まぐるしい変化が起こっています。実務での対応が増えているので、今後も会員拡大に繋がるような魅力ある内容を開催していきたいと思っています。

### Local activities

#### 学びと相談を通じた 淡路島の基盤づくり

多くの見分が広がるよう各年島外の建築物・製品工場・文化施設等の見学研修旅行を開催し淡路島再発見事業を行い建築物・制作工場・研究施設・文化施設等の見学を毎年実施しております。

各島内3市より耐震改修審査と危険度判定(空き家調査)業務委託事業を行っていることから、『洲本ガス展住宅無料相談会(洲本市立文化体育館にて)』や『南あわじ食の祭典耐震相談ブース(福良町屋地区にて)』を開催して、住宅耐震化促進事業の一環で毎年行っています。



## 加古川支部

支部長 山本 和久

### Connection

#### 地域と備える 防災啓発活動と企業連携

加古川支部では、加古川「楽市」に参加し、「震災を忘れない」をテーマとした防災・減災啓発活動を実施しました。当日は、実物大震動実験施設Eディフェンスの実験映像を活用し、地震の揺れが建物や家具に及ぼす影響を分かりやすく紹介しました。

また、耐震マットを製造・販売するプロセブン株式会社様の協賛により、同社製品の展示に加え、家具固定や感震ブレイカーなどの減災対策商品、防災グッズの紹介も行いました。あわせて、住宅の耐震化を身近に考えてもらうため、紙の組立模型「紙ぶるる」を用いた説明や、耐震診断・補助金制度のパンフレット、簡易耐震診断カードの配布を実施しました。専門家と企業、地域住民が同じ場で防災について学び合う機会となり、地域の安全意識を高めるとともに、支部と企業、地域をつなぐ取り組みとして意義ある活動となりました。

\*プロセブン 株式会社 <https://www.pro-7.co.jp/>  
耐震マットを製造販売されており、官公庁をはじめ金融機関、医療機関、教育機関、情報・通信分野、交通・電力分野、製造業、小売・商社など、数多くで導入されています。地震に対する安全対策はもちろん、工場などの生産ラインにおける機器の防振・騒音低減にも利用されています。



### Local activities

#### 手仕事の価値をひらく ギャラリー連携企画

加古川支部では、世界の「貴重な作品」を紹介・展示・販売を手掛けるgallery「集-shu-」とのコラボレーション企画第一弾として、「キリムの魅力とインテリア」をテーマにした勉強会を開催しました。本企画は、国内外の貴重な作品や伝統的な手仕事に直接触れ、作者や専門家の声を通して素材や技の背景を学ぶことで、建築や暮らしに活かせる感性と知見を深めることを目的としています。

当日は、キリムズジャパンの斎藤待子氏を講師に迎え、トルコのオールドキリムを中心に、その歴史や素材、織りの技術、インテリアとしての魅力について講義と実物見学を実施しました。100年以上前の自然環境と織り手の感性が生んだキリムの質感や色彩に、参加者は強い関心を寄せ、質疑も活発に行われました。

本企画を通じて、手仕事の価値や文化的背景を共有する場が生まれ、地域に根ざした学びの機会となりました。今後も同ギャラリーとの連携を継続し、第二弾・第三弾へと発展させていく予定です。



## 神戸支部

支部長 川崎 史

### Knowledge

#### 会員外にも開いた 事務所交流の実践

神戸支部では、神戸市内で開設5年以内の建築士事務所を対象とした『建築士事務所交流会』を開催しました。

この交流会は昨年度に続き2回目の開催となり、今回は建築士事務所協会の会員以外の参加者11名を含む、総勢30名が参加しました。

交流会では、日頃の業務内容や得意分野、独立のきっかけなどを気軽に語り合う交流の場として実施しました。

飲食を交えた和やかな雰囲気の中で、参加者同士が自然に打ち解け、横のつながりが生まれています。

堅苦しさを排した形式とすることで、協会活動に馴染みのない建築士にも参加しやすく、若手建築士の支援と会員増強の双方に寄与する好事例として、今後も継続して行こうと考えています。



### Local activities

#### 建築をもっと身近にする地域活動 親子模型体験会

神戸支部では、地域福祉センター等と連携し、一般の小学生とその保護者を対象とした「親子建築模型体験会」を継続的に実施しており、今回で5回目の開催となりました。

建築士が直接サポート役となり、親子が協力しながら模型制作に取り組むことで、建築や住まいを身近に感じてもらうことを目的としています。

当日は、「難しかったけれど楽しかった」「あつという間に時間が過ぎた」といった声が多く聞かれ、親子が一緒に熱中し、約3時間が瞬間に過ぎるほどの活気ある雰囲気となりました。制作を通じて、建築士事務所の存在や建築士の仕事を身近に感じてもらい機会となり、建築やまちへの関心を育む場となっています。

本活動をきっかけに、将来、建築に興味を持ち、建築士を目指す子どもたちが増えていくことを期待しています。建築を通じた次世代育成と地域基盤づくりに寄与する取り組みとして、他支部でも展開可能な好事例です。



## 三田支部

支部長 衣笠 安治

### Knowledge

#### 実践を通じて共有する 建築技術の知見

大学や研究機関、地域団体との連携を通じて、建築に関する実践的なナレッジ共有を行っています。

関西学院大学では、「さんだ桜まつり」のイベント会場において、学生が計画する屋外ティビー天幕の製作に、当会会員が技術指導として参画しました。また、1・2回生を対象に、当会会員である一級建築士が耐震補強の基礎講義を行い、簡易耐震診断や補強計画・工事の考え方、古民家の計測手法、設計作図までを体系的に指導しました。

さらに、兵庫県立人と自然の博物館では、新収蔵庫棟コレクションナリウム敷地内の駐車場アート計画において、広報渉外部会員が技術的助言を行いました。

加えて、「ひょうごの木」利用拡大神戸・阪神地域協議会では、建築物の木造化・木質化に活用された事例作品の見学研修会を実施しています。

これらの取り組みを通じ、建築技術を実践の中で共有し、次世代や地域へと知見をつなぐ活動を推進しています。



### Local activities

#### 行政・市民・大学とつくる 協働の地域基盤

三田支部では、行政や市民、大学と連携し、地域の安全と将来を支える基盤づくりに取り組んでいます。市制60年記念事業を契機に、三田市と協働参画事業として、三田市耐震改修促進計画に基づく建築無料相談会を実施しました。耐震化啓発活動を広げることで、既存住宅の耐震改修促進を図り、地域の防災力向上に寄与しています。

また、夏の風物詩「三田まつり」では、来場者約8万人の中で建築士事務所による街頭キャンペーンを恒例開催し、建築無料相談に加え、子どもたちが楽しみながら建築に触れられる体験型イベントを実施しました。こうした継続的な活動により、市民への認知も高まり、次回開催を期待する声も聞かれています。

さらに、関西学院大学神戸三田キャンパスでは、インキュベーション施設を拠点に、地域住民・企業・自治体が交流する場づくりへの協働参画を目指しており、大学を含めた多主体連携による持続的な地域基盤形成を進めています。



## 西はりま支部

支部長 長永 保

### Knowledge

#### 技術と視点をつなぐ 支部合同の学び

西はりま支部の支部活動としては、たつの市から業務委託を受けた住宅耐震化相談会や地域イベントに参加して住宅相談会・事務所キャンペーン等を開催しています。

近年、会員の減少、高齢化により支部単独での活動は難しい状況です。そこで他支部事業の参加や合同事業を進めています。最近では阪神支部の事業、兵庫県の町の歴史と魅力を再発見し未来に繋げる事業の第1弾「塩で栄えた街 赤穂」に参加し赤穂周辺の街歩きをしました。

今年度は、姫路支部と「BIMを介しての将来の設計事務所の在り方について語る会」を共催しました。講師から、BIMやDX技術活用状況や将来像、新技術を介して今後の設計事務所の在り方についてお話を伺い、BIMソフトのデモや高齢化・少子化を踏まえた今後の建設・設計業界の仕事の進め方、働き方等の意見交換をしました。

今後も他支部との協力・連携を進め会員相互の交流、技術力の向上と会員増強を図りたいと思います。



### Local activities

#### 地域祭りと共に 建築士事務所の役割

住宅相談会・事務所キャンペーンを「最上山もみじ祭り」で、もみじ山へ続く酒蔵通りにブースを設置して開催しています。

この祭りは、宍粟市山崎町にある最上山公園「もみじ山」を会場にして行われる秋の紅葉祭りです。約20年前に地元の婦人有志がもみじの植樹活動を始め、甘酒とコーヒーを無料で振る舞ったのが祭りの原型です。当初は小さな活動でしたが、今では多くの観光客が訪れる祭りに成長しました。

例年、宍粟の工務店グループ「宍粟のチカラ」の皆さんとイベントを共催しています。子供上棟体験、宍粟材を使ったマイ箸作り、墨付け体験、角材をカットシグラムを当てるイベント等を行っています。

この地域は昔から職人の多い地域でしたが、人口減少や職人の高齢化による担い手不足は深刻な問題です。この様なイベントと一緒に活動することで、情報交換や新しい情報発信をしながら協力して地域活性化に頑張りたいと思います。



## 但馬支部

支部長 林 勤

### Knowledge

#### 地方建設会社の実践から学ぶ BIM導入のリアル

10月28日、兵庫県立但馬長寿の郷 研修棟視聴覚室にて、BIM勉強会を開催。講師には鳥取県米子市を拠点とする建設会社、美保テクノス(株)の新田唯史氏を迎え、23名が参加。地方の建設会社としてBIM導入に取り組んできた実践事例をもとに、導入による効果だけでなく、移行期に直面した課題や失敗事例、組織内での浸透プロセスについても率直に共有いただきました。

さらに、今後の建設業界におけるBIM活用の動向や、無理なく取り組みを進めるための視点も示され、参加者にとって具体的な指針となる内容でした。BIMの必要性を感じつつも着手できていない参加者も多い中、導入を自分ごととして捉えるきっかけとなる有意義な学びの場となりました。



### Local activities

#### 但馬の地域材を活かす、 木造建築の実践知を共有

活動エリアは、県土の4分の1に及び豊かな自然環境に加え多くの文化財や歴史遺産や温泉、食べ物などの魅力的な観光資源に恵まれている但馬支部。これらの魅力を建築分野からさらに活かすことを目的に、『地域木材活用による木造建築物推進講習会』を開催しました。

講師には兵庫県農林水産技術センター森林林業技術センターの永井智氏を迎え、18名が参加。前半では県産木材の特性や乾燥・強度などの基礎知識を、後半では高強度梁仕口『TAPOS®』をはじめとした最新技術を紹介いただきました。地域材である杉を横架材として活用する際の構造性能向上の工夫など実務に直結する内容が多く、仕口模型を用いた解説により理解が一層深まりました。地域材活用を通じ、持続可能な建築と地域基盤づくりを考える有意義な機会となりました。



## 阪神支部

支部長 工藤 晃久

### Knowledge

#### 専門知をひらき合う サポートセミナーの場

阪神支部では、主に賛助会員が自社の魅力や専門分野のトレンドを紹介する「サポートセミナー」を、年4～5回、平日夕方に開催しています。

毎回2名(社)の講師が30分ずつ登壇し、正会員・準会員・賛助会員に加え、入会を検討中の方など30～40名が参加。質疑応答のやり取りも活発で、知見を深め合う実りある交流の場となっています。時には賛助会員以外の講師も登壇し、内容の幅も広がっています。

セミナー後の懇親会では毎回、参加者全員が自己紹介や近況報告等の機会を設けることで、世代や立場を越えたつながりが生まれ、共同事業等へと発展する例も見られます。これらの取り組みはコロナ禍以降、支部活動の1つの柱として定着し、会員拡充にも繋がっています。

今後は「生成AI活用法」など注目テーマも予定しており、阪神支部のInstagram等で情報発信を強化し、他支部の会員や一般の方々にも広く門戸を開き、さらなる認知拡大と会員拡充を目指します。



### Local activities

#### 学びと現場をつなぐ 木構造セミナーの実践

阪神支部では今年度、「木と生きる未来へ… 構造デザインの最前線へ」をテーマに、地域資源の活用と木材利用促進を目的とした全3回のセミナーを開催しました。

第1回(7月11日)は「デザイナーが知りたい木構造と木の流通」、第2回(8月21日)は「ヤマダの木構造」として座学を実施。第3回(11月7日)は「木と共生、森が建材になるまで」と題し、林業現場と製材工場を巡るバスツアーを行いました。

各回とも学生や他支部会員を含む約40名が参加し、木材の魅力と可能性を多角的に学ぶ機会となりました。本企画は、兵庫県農林水産部 林務課、(株)山田憲明構造設計事務所、HALO木構室 一級建築士事務所、兵庫県木材業協同組合連合会、(公社)兵庫県建築士会 阪神支部、当協会 阪神支部 賛助会員の皆様のご協力により実現しました。

公民連携のネットワークを活かし、専門性と実践力を融合させた取り組みとして、地域に根ざした価値ある活動を今後も推進します。



## 姫路支部

### Knowledge

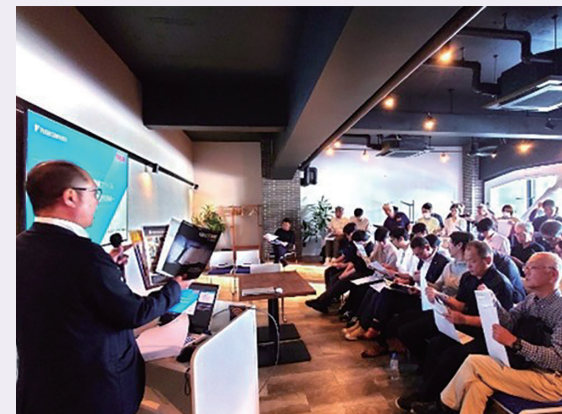
#### ミライ推進委員会 活動について

姫路支部では、設計事務所間の交流と地域建築業界の活性化を目的に「ミライ推進委員会」を立ち上げ、2024年度より年1～2回の活動を行っています。

2024年度は「姫路駅周辺の街づくりについて語る会」を開催し、大手前通りの活性化に取り組む梶原伸介氏を招き、特区認定後の活動や課題、今後の展望について伺いました。姫路市役所職員を含む47名が参加し、活発な意見交換が行われました。

2025年度は「BIMを介しての将来の設計事務所の在り方について語る会」を実施し、婦木徹氏と杉田宗氏よりDX化の必要性や大学教育の現状を伺い、若手17名を含む54名が参加しました。

続いて11月には市内事務所のBIM活用を共有するオフ会を開催し、29名が参加。共通課題の把握や交流の深化につながりました。2026年度は建築見学会を企画し、次世代育成にも取り組む予定です。



### Local activities

#### 行政と連携した 地域防災・耐震啓発活動

姫路支部は2025年6月22日、姫路市立城西小学校において、校区内住民の皆さんを対象に住宅の耐震に関する講演を行いました。当校区では連合自治会主催の防災訓練を毎年6月に実施しており、今年度は「地震に対する意識を高めよう」をテーマに、姫路市役所(建築指導課)と当支部が協力して開催されました。

当日は地震発生を想定し、各地区から約500名が体育館に集合しました。講演は前半を市役所が「地震に強い家づくり」、後半を当支部が「建物の減災化の取り組み」と題して実施し、耐震診断、補強方法、家具固定、マンションの耐震化などをパワーポイントで説明しました。住民の皆さんの防災意識向上に寄与する有意義な機会となりました。



## 北はりま支部

支部長 森本 恭行

### Knowledge

#### 公共施設再編に伴う 解体設計のナレッジ

地方公共団体にあっては、近年の人口減少や市民ニーズの多様化、建物の老朽化により公共施設の再編計画が進んでいます。そういった状況から公共建物の解体設計業務が発注されるようになりました。設計図書の読み取り、部材ごとの重量・体積の算出、廃材処理や再利用計画などこれまでの新築・改修設計業務とは違った内容が求められ、新しい設計の分野であると考えられています。加えて石綿含有建材(アスベスト)の推定と調査なども法令順守・適正な工事費算定の面から重要となっています。

北はりま支部では経験も豊富な特定建築物石綿含有建材調査者を講師に招き、解体設計に関する知識を高める取り組みをしています。引き続き継続していきたいと考えています。

### Local activities

#### 地域イベントを通じた 建築士の防災啓発

毎年北はりま支部では、展示、販売、飲食ブースなどを通して市内企業・団体や特産品等の紹介を行う「にしわか産業フェスタ」に参加し、無料建築相談や建築士事務所協会の活動紹介を行っています。

例年は木造住宅の構造モデルを展示し、住宅耐震性の大切さなどを一般の方にご理解いただける活動をしてきました。

今年は賛助会員のご協力を頂き、風水害に対する防災対策製品を展示し、自然災害に対する備えについて意識を高めていただく取り組みを行いました。

## 趣味から 見えるもの

- 56- 北欧研修旅行記 建築巡礼の旅
- 64- 北欧の風景 スケッチ その7
- 67- 地中海5カ国クルーズ

